

2026 年 10 月 2 日 第 3567 回例会

於： 横須賀商工会議所

持続可能な
インパクトを
生み出そう



- <点鐘・開会> 12:30 渡 邊 会長
<斉 唱> 「君が代」「奉仕の理想」
<唱 和> 「四つのテスト」
<ゲスト紹介> *国際ロータリー第2780地区
第1グループガバナー補佐 高 橋 隆 一 様
〃 補佐付幹事 兼 城 毅 様
*アクサ生命保険(株)横須賀営業所 所長 渡 邊 賢 治 様
*通訳 弘 子 グリーン 様
<ビジター紹介> *Mission San Rafael RC ミッション・サン・ラファエルRC
Mike Green 様
<誕生月祝> *岡 田 圭 太 (H. 2) *鹿 島 勇 (S. 22)
*永 浦 夕佳里 (S. 54) *山 下 和 志 (S. 53)
*萩 原 英 恵 (S. 49) *小 林 康 記 (S. 24)
*濱 田 恵 里 (S. 33) *椿 和 香 (S. 43)

各会員



- <入会月祝> *小佐野 圭 三 *飯 塚 進一郎 *根 岸 文 彦 *物 井 宏 介
*岡 田 英 城 *平 松 廣 司 *鈴 木 隆 裕 *角 井 駿 輔
*森 勇 人

各会員



＜会 長 報 告＞ ＊第3回理事役員会 報告

＊ガバナー事務所から

- ・ロータリー財団地域セミナー開催のお知らせについて

日時：12月2日（水）12：00～13：00 登録

13：00～17：00 セミナー

場所：リーガロイヤルホテル大阪3F

＜委員長報告＞ ＊出席委員会 江口委員長より9月分出席率報告 9月分平均出席率 73.01%

	会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
9月 4日	102名	95名	67名(1名)	28名	3名	73.68%
11日	103名	95名	55名(3名)	40名	12名	69.07%
18日	103名	97名	72名(3名)	25名	2名	76.29%

＊雑誌委員会 柴田委員長よりロータリーの友10月号の紹介

＊社会奉仕委員会 比護委員長より社会・国際奉仕セミナー報告

及びポリオ根絶募金活動について

＜幹 事 報 告＞ ＊ロータリー米山記念奨学会より「豆辞典」「2025年度決算報告・事業報告書」受領

＊例会終了後次年度地区大会第2回実行委員会開催

その後第1グループIM実行委員会開催

＜出 席 報 告＞ ＊出席委員会 江口委員長から10月2日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
101名	93名	65名(1名)	28名	15名	83.33%

メイクアップ：岡田(圭)、加賀本、小山(美)、齋藤(慎)、鈴木(孝)、鈴木(康)、

高橋(岐)、永浦、西生、松岡、松川、三堀、瀬戸、田中 各会員 地区大会出席

勝見会員 理事役員会出席

＜ニコニコ報告＞

- ・第1グループガバナー補佐 高橋 隆一様 本日は地区より指示されたRI会長の話とロータリーに入って変わった事について話をさせていただきます。10月30日の中込ガバナー公式訪問、皆様ご出席よろしくお願い致します。

- ・大野 健、齋藤 倫、井 上、齋藤 眞、濱 田、新 倉、植 田、江 口、
小山 陽、江 沢、松本 剛、梁 井、加藤 倫、八 巻、澤 田、森、杉 浦、
小 澤、波 島、小佐野、若麻績、岡田 慎、臼 井、長 尾、飯 塚 健、
宮 島、川 名、小林 (-)、鈴木 豊、兼 城、田 邊 各会員

国際ロータリー第2780地区第1グループガバナー補佐 高橋隆一様、本日の卓話
よろしくお願いいたします。

- ・齋藤 眞、権 田、角 井、柴 田、高橋 倫、鈴木 豊 各会員 ミッション・サン・ラファエルロータリークラブ Mike Green 様、奥様弘子グリーン様ようこそお越し下さいました。ごゆっくりお過ごしください。

- ・萩 原 会員 本日は叔母夫婦と一緒に参加させて頂きました。叔父はサンフランシスコのミッションサンラファエル所属のロータリアンです。どうぞよろしくお願い致します。

- ・山下和志、萩 原、小林 倫、濱 田、椿 各会員 誕生月祝いとして

- ・小佐野、飯塚 健、根 岸、物 井、岡田 慎、角 井、森 各会員 入会月祝いとして

- ・石 田、堀 川、齋藤 眞、新 倉、植 田、波 島、岡田 慎、藤 村、川 名、高橋 倫 各会員

三浦学苑美術部の生徒さんが、高校生国際美術展で全国高等学校美術工芸教育研究会賞
を受賞したそうです。おめでとうございます。

- ・比 護、荻 山、加藤 倫、吉 住、齋藤 眞、濱 田、植 田、角 井、飯塚 健、真 野、
鈴木 健、波 島、齋藤 倫、小保内、宮 島、石 川、高橋 倫、池 田、山下和志 各会員

台風25号により三浦半島、さまざまところで多くの方が、被害に遭われておりま

す。1日も早い復興を祈っております。

＜卓 話＞

国際ロータリー第2780地区

第1グループガバナー補佐 高橋 隆一 様

皆さま、こんにちは。2026-2027年度第1グループガバナー補佐を務めております、高橋隆一です。横須賀RCに所属し、不動産業を営むほか、三浦学苑高等学校の理事長を務めております。本年度一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

まずは私のロータリー歴について少しお話しします。私は2002年から2006年まで横須賀南西RCに在籍し、2008年2月に横須賀RCへ入会しました。その後、インターアクト委員会や青少年奉仕、ロータリー財団、クラブ副会長・会長などを経験し、地区においてもインターアクトや青少年奉仕を中心に活動してまいりました。本年度は第1グループガバナー補佐と地区危機管理委員会副委員長を務めております。

本日は、中込ガバナーから各クラブでお伝えするよう依頼されている、2026-2027年度国際ロータリーの方針についてお話ししたいと思います。2026年1月、米国フロリダ州オーランドのローゼン・シングル・クリーク・ホテルにおいて国際協議会が開催されました。広大な敷地には池や芝生、ゴルフコースが広がり、早朝には美しい朝日が昇る素晴らしい環境でした。そこで国際ロータリー会長としてスピーチを行ったのが、ナイジェリアの実業家であるオラインカ・ハキーム・ババロラ氏です。同氏は1988年にローターアクトから活動を始め、その後ロータリークラブ会長、地区ガバナー、国際ロータリー理事、副会長などを歴任し、2026-2027年度国際ロータリー会長に選出されました。会長は冒頭、「ロータリーの国際性を体験しなければ、会員としてのメリットを十分に享受しているとは言えません」と語り、世界中から集まった仲間との出会いを大切にしようと呼び掛けました。多くの人と知り合い、友情を育み、学び合うこと。それこそがロータリーが私たちに与えてくれるかけがえのない機会であると述べられました。また会長は、「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています」というロータリーのビジョンについて説明されました。特に印象的だったのは、「ロータリーが私たち自身を変える」という言葉です。ロータリーは世界や地域社会を変えるために活動していますが、その活動を通じて私たち自身も成長し、より良い人間へと変わっていく。その変化こそが未来への第一歩になるという考え方です。

会長はさらに、「変化」と「インパクト」は同じではないと強調されました。「変化は始まりに過ぎません。インパクトこそが永続するのです」という言葉が紹介されました。変化が一時的なものであるのに対し、インパクトとは長期的で持続可能な好ましい変化を意味します。私たちは単なる成果だけでなく、その先に続くインパクトを生み出すことを目指さなければなりません。その例として紹介されたのが、南アフリカのナイズナRCによる幼児教育支援プロジェクトです。同クラブは地域の女性たちが幼児教育センターを開設・運営できるよう支援しました。その結果、何千人もの子どもたちや家庭が恩恵を受け、今後も何世代にもわたり教育の機会が提供され続けることとなります。また会長は、ナイジェリアにおける妊産婦ケア改善の事例にも触れ、ロータリーが世界各地で持続可能なインパクトを生み出していることを紹介されました。こうした活動が地域社会からの信頼につながり、その信頼が新たな会員の入会へと広がっていくのです。

続いて会員増強についても重要なメッセージがありました。会長は、一部のクラブに閉鎖的な傾向があることに触れ、若い世代や異なる背景を持つ人々をもっと温かく迎え入れるべきだと訴えました。そして、「皆さんの態度ひとつで、誰かのロータリーのストーリーが始まるかもしれないし、終わるかもしれない」と語



られました。また会員増強はクラブや地区同士で競うものではなく、それぞれが過去最高を目指して努力するものだと述べられました。国際ロータリーでは2030年までにロータリアン125万人、ローターアクト会員12万5千人という目標を掲げており、その実現は私たち一人ひとりの行動から始まります。

さらに財団寄付についても同様の考え方が示されました。財団寄付もクラブや地区間の競争ではなく、自クラブ・自地区の過去最高を超えることを目標としてほしい。そして「グッドからベターへ、ベターからベストへ」と歩み続けてほしいとのメッセージがありました。財団への寄付は、世界各地の奉仕活動や人道支援を支える重要な原動力であり、持続可能なインパクトを生み出す大きな力となります。

こうした理念を踏まえ、2026-2027年度の国際ロータリー会長ビジョンとして発表されたのが、「クリエイト ラスティング インパクト（持続可能なインパクトを生み出そう）」です。

ここで、私自身がロータリーに入会して変わったことを二つお話ししたいと思います。第一の変化は、2014-2015年度に三浦学苑インターアクトクラブを設立したときです。それまでは例会に参加することが中心でしたが、インターアクトクラブ設立に奔走し、地区活動にも積極的に関わるようになりました。本業である学校経営とも重なり、若い世代を育てる喜びを実感するようになりました。第二の変化は、2023年に副会長、そして2024-2025年度に会長を拝命したことです。私は長年、青少年奉仕を中心に活動してきましたので、地区最大規模の会員数を擁する横須賀RCの会長を務めることに大きな不安がありました。しかし、多くの先輩方や仲間を支えられ、「責務の完遂」という会長方針のもと一年間務めることができました。その経験を通じて強く感じたのは、変化とは心の持ち方から始まるということです。前に進んで壁にぶつかったときは周囲に相談する。停滞しても前へ進む気持ちを失わない。仲間を信じ、ともに進む。その大切さを学ぶことができました。これは皆さまの会社経営や職業活動にも通じることではないかと思います。ロータリーの四つのテストにある「みんなのためになるかどうか」を大切にしながら、私自身も、そして皆さまとともに持続可能なインパクトを生み出していきたいと思います。

最後に、ガバナー公式訪問についてお願いがあります。ガバナー卓話でお聞きになりたいロータリーに関する質問がありましたら、ぜひ事前にお寄せください。また、公式訪問例会終了後の懇談会には、特に入会3～5年程度の新会員の皆さまに積極的なご参加をお願いできればと思います。

ご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 渡 邊 会長

週報担当 荏 山 寛 樹